



ライフステージで考える
ライフプランニング講座〈第3回〉

独身者、DIINKSの ライフプラン

時代によって世の中の家族の姿は変わっています。ずっと昔、夫婦と親、子供、その他親戚からなる大家族がごく当たり前の時代がありました。いまや3世代以上から構成される大家族は、珍しい存在になりつつあります。総世帯から見るとわずかに6%ほどしかありません。

戦後の高度経済成長とともに増加し、当たり前となったのが夫婦十子子の世帯です。昭和50年には総世帯の42%がこの形となりました。夫婦十子供世帯が最も多かったのが昭和60年。それ以降、夫婦十子供世帯はどんどん減少し、いまでは総世帯の30%を下回るまでになりました。

大家族が核家族化していった時代も、もう昔のこととなりました。いまや、日本の世帯で一番伸び盛りののが単身世帯と、夫婦のみ世帯なのです。いまや単身世帯は総世帯の30%、夫婦のみ世帯は20%を占める

まで増加しています。何と2世帯に1世帯が単身世帯か、夫婦のみ世帯ということ。これからの時代は単身世帯と夫婦のみ世帯が動かしていく、と言っても過言ではなさそうです。

1 単身者のライフプランの特徴

とは言え、この急増の背景には高齢化という社会現象があります。高齢者の単身世帯、夫婦のみ世帯が増加しており、この統計に反映されているのは間違いありません。ただ、同時に若年層でも増加しています。若年層にも単身者が増えている理由については、私たちがこれまで受けたご相談の中でも挙げられています。

〈よくある結婚しない理由〉

- ・ 出会いがない
- ・ 結婚するとお金が自由に使えなくなる



藤川 太

CFP ファイナンシャル・プランナー
生活デザイン株式会社代表取締役

【ふじかわ ふとし】1968年、山口県生まれ。慶應義塾大学大学院理工学研究科を修了後、自動車会社勤務を経てファイナンシャル・プランナーに。「家計の見直し相談センター」で個人向け相談サービスを展開している。著書に『家計株式会社化のススメ』（講談社＋α新書、2011）『お金の不安に答える本 男子用』（日本経済新聞出版社、2010）『サラリーマンは2度破産する』（朝日新書、2006）等がある。

- ・ 結婚できる自信がない
- ・ 結婚する気なんてない

最近、感じる理由の一つに、経済的な理由があります。皆さん、あまり口には出さなくても、話を聞いていると底流には経済的な不安が横たわっているように思います。

民間の会社に勤める人たちで見ると、結婚適齢期と言える25〜29歳男性の平均給与は年収327万7000円（平成21年民間給与実態調査）です。年々、平均給与は減っています。女性は相手に所得が高いことを望み、男性は所得が低いことで自信を失っています。そういう悪循環が続いているように感じます。

もちろん公務員の皆さんにも単身者は増えてはいます。民間に比べ所得が比較的安定していますから、結婚はお金だけじゃないということも言えるわけです。もし、結

婚する気が最初からないなら仕方ありませんが、出会いがないだけなら出会いの場を作ることで結婚する人が増えるはず。最近では自治体主催するお見合いパーティーが増えています。目覚ましい成果とはいかなくとも、少しずつ成果が上がっているようです。

2 単身者とDINKS世帯のライフプラン

では、ここで一生単身という人のライフプランを見てみましょう。35歳の男性がそのまま単身で生活することをシミュレーションしています(図表)。

こうして見ると、スツキリとしたライフプランです。DINKS(=Double Income No. Kids。共働きで子供がいない)世帯は単身世帯よりはイベントが多くなりますが、やはり同様にスツキリとしたライフプランです。従来は夫婦+子供世帯がモデルとして多く使われてきていますが、単身世帯とDINKS世帯が夫婦+子供世帯との違う点を以下のようにまとめてみました。

1) 大きなライフイベントが少ない

一般的に単身世帯やDINKS世帯のライフプランには大きなライフイベントがほとんどありません。DINKS世帯には旅行のイベントが入りやすいですが、金額は大きくありません。一番大きな人生の転機は何と言っても退職です。退職前と退職後では生活が大きく変わります。

2) 趣味に対する項目が多い

単身世帯の特徴はお金を自由に使えること。DINKS世帯は共働きで子供がいない分、それぞれの収入の大部分をそれぞれで使うとルールを決めている家庭が多くあります。

ただ、お金を自由に使えると言っても、給料がある程度なければ使えませんが、男性であれば車、ゴルフなどのスポーツ(観戦も含む)、山登り、収集などにお金を使う傾向があります。女性であれば、旅行、洋服、小物、エステなどにお金を使っている人が多いようです。お金の使途は違いますが、結構な割合のお金を使っている人が多いのが特徴です。

3) 教育費の山場がない

夫婦+子供の世帯では、子供が高校、大学に進学する時期にまとまった金額の教育費を負担する必要があります。子供が1人として、国公立の学校で年間50~70万円程度、私立の学校になると年間100万円程度の負担が押し掛かります。こうした負担の増加がライフプランを複雑にします。単身世帯やDINKS世帯には子供がいないのですから、当然こうした負担は必要ありません。

4) 老後に不確定な要素が増える

夫婦+子供世帯は教育費の山場を越えるために、さまざまな努力をして節約をす

る傾向があります。単身者の中には、そこまでして子供を育てることに疑問を抱く人が少なくありません。ただ、この教育費の山場は、老後の家計に良い効果をもたらします。

よほどの高収入の家庭でない限り、教育費を貯める、払うためには、節約を心がけ家計を引き締める必要があります。子供の教育費が出て行く間、家計は火の車のように感じるかもしれませんが、教育費を負担するのは限られた期間だけです。子供が学校を卒業した後は、教育費が要らなくなる分、一気に家計が楽になるものです。

ただ、子供が独立したからと言って油断は禁物です。これまで教育費で四苦八苦したため、老後資金がありません。教育費が要らなくなった分、旅行や趣味に使っては老後の生活が危うくなります。そのため、退職までに老後資金を貯めるために、節約を続けることとなります。こうして夫婦+子供世帯は、節約を続けることで堅実な家計運営が習慣化されていきます。

ところが、単身世帯やDINKS世帯には家計を引き締めなくてはならない理由がほとんどありません。月々1万円ずつ貯蓄しているから合格、貯蓄をしていれば大丈夫と安心しがちです。中途半端な貯蓄をしているだけであれば、教育費などの大きな支出がないわけですから、かなり余裕のある生活費を使い続けてしまいます。この危機感のなさが問題です。

図表 キャッシュフロー表 (昨年末の預貯金残高：300万円)

西暦		2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027
年齢	A 様	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51
家族のイベント							車 200							車 200					
	上昇率																		
収入	給与所得 本人	477	477	477	477	477	477	477	477	477	477	477	477	477	477	477	477	477	477
	給与所得 配偶者																		
	退職金 企業年金																		
	子ども手当																		
	満期保険金など																		
	住宅ローン減税																		
	私的年金																		
	公的年金 本人																		
	公的年金 配偶者																		
収入合計		477	477	477	477	477	477	477	477	477	477	477	477	477	477	477	477	477	477
支出	基本生活費		300	300	300	300	300	300	300	300	300	300	300	300	300	300	300	300	300
	その他の生活費		20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20
	住宅ローン																		
	家賃・管理費・固定資産税等		84	84	84	84	84	84	84	84	84	84	84	84	84	84	84	84	84
	生命保険料																		
	一時的な支出						200							200					
	教育費																		
	自動車経費		45	45	45	45	45	45	45	45	45	45	45	45	45	45	45	45	45
	使途不明金ほか																		
	支出合計		449	449	449	449	449	649	449	449	449	449	449	449	649	449	449	449	449
収支		28	28	28	28	28	-172	28	28	28	28	28	28	-172	28	28	28	28	28
預貯金残高	0.0%	300	328	356	384	412	240	268	296	324	352	380	408	236	264	292	320	348	376

※物価上昇および昇給は加味していません。

ングも、子供が小学校に入る前が多かった
ので、専有面積が70平米以上のファミリー
タイプのマンションが数多く建てられまし
た。もちろん現在でもファミリータイプの
需要は多いのですが、一方で単身世帯、
DINKS世帯が住宅購入をしたいという
相談が増えています。

夫婦＋子供世帯であればマンションだけ
でなく戸建てという選択肢もあるのですが、
単身世帯やDINKS世帯にとって戸建て
は広すぎます。また、最近はセキュリティ
を重視する人が増えており、マンションが
人気です。マンションディベロッパもこ
うした世の中の流れを読んで、専有面積が
30～60平米程度のマンションを数多く作る
ようになりました。70平米以上だと広すぎる
し高いと考えていても、コンパクトなマン
ションであればそれだけ価格が安くなるの
で手が届くようになったわけです。

手が届くと言っても、単に住宅ローンを
借りることができる範囲というだけです。
返済できるかどうかは別の問題ですし、そ
もそも買ったほうがいいかどうかという問
題もあります。

ずっと単身世帯であることを前提に購入
しても、いつしか出会いがあり結婚するケ
ースは多くあります。単身であれば狭い部
屋で十分生活できますが、結婚すれば手狭
になってしまいます。DINKS世帯が子
供が生まれないことを前提に住宅を購入し
た場合も、子供が生まれたとき同じように

手狭になってしまいます。いずれも現状で考えているライフプランが変わったときには、引越しを余儀なくされることとなるでしょう。

その場合には、売却するか、他人に賃貸するかを迫られることとなります。だから「失敗した！」となるケースが実に多いのです。そうならないためにも、住宅を購入する際には以下のポイントに気をつけましょう。

1) 「住む家さえあれば安心」という気持ちを捨てる

単身世帯やDINKS世帯が住宅を購入する動機に多いのが「歳をとったときに、家さえあれば安心」というもの。歳をとったときに家を借りようと思っても貸してくれない、という先入観があるようです。特にこの思いは女性の単身世帯に多いように感じます。

実は住む家さえあればという思いで家を買う人は、失敗する確率が高いように感じています。なぜなら、「こういう人の多くは」家を買うこと自体も困難なこと」と思っているから。家を買えただけで舞い上がることもしばしばです。

家を買えただけで喜んでくれる人は、住宅メーカーの営業担当者にとっては好都合です。他の物件と比較検討されたり、厳しい値引き交渉をされることもなく、定価で買ってもらえるのですから。

そもそも、高齢者は家を貸してもらえないというのは本当でしょうか。現状でその傾向があることは否定しません。しかし、これからの人口動態予測を見ると、若い世代の人口は大幅に減少し、高齢者の人口が大幅に増える傾向です。そんな時代ですから、高齢者には貸しませんという大家さんは激減すると予想されます。

2) しっかりと比較検討をする

住環境ばかり重視して住宅を選ぶ人は失敗しやすい傾向があります。高いけれど環境がいいからねえ、と言いつつするのが特徴です。

住環境がいいのはもちろんなのですが、価格とのバランスはしっかりとチェックしましょう。少なくとも10件以上の物件を実際に見て回り、比較検討した上で物件を絞り込んでいくことをお勧めします。物件を見れば見るほど相場観がつかってきますし、いい物件を見分けることができなくても、これは買ってはダメという物件がわかるようになってきます。

価格には売主の希望価格が付けられていますが、買主であるあなたが定価で買う必要はありません。買主も希望価格を出しているのです。遠慮なく「この金額なら買いたいです」と希望を表明しましょう。

3) 他人に貸す前提で価格を見積る

持ち家はライフプランが変われば売却す

るか、他人に貸すことになる可能性が高いのですから、そうなくても損が出にくい買い方をしておかなければ家計を苦しめることとなります。損が出ればその分、住み替えの条件を悪くせざるを得なくなります。

物件を調査する際には必ず「他人にいくらで貸せるだろうか？」ということを考えましょう。新築物件であれば、その年間家賃の少なくとも20倍以内の価格で買えるように価格交渉します。中古であれば16倍以内で買えるかが目安です。

この倍率が小さければ小さいほど割安で買えるということ。現在の金融情勢なら、20倍程度で買うことができれば他人に貸したとしても持ち出しをする可能性は低くなります。できるだけ割安で環境のいい物件を手に入れるには、面倒かもしれませんが、失敗を避けるための手間を惜しまずにできるだけ多くの物件を調査し、これと思った物件は価格交渉してください。

単身世帯やDINKS世帯だけでなく、夫婦十子供世帯もいずれ歳をとって、老後の生活に入っていくこととなります。

次回は本連載の最終回ですが、退職に向けたライフプランニングについて解説しましょう。

